

アジア・オセアニア高校生フォーラム

7月30日から8月3日にかけて、自ら考え、発信・行動し、グローバル社会で活躍できるリーダーを育成することを目的に、第2回アジア・オセアニア高校生フォーラムが開催されました。県内外の高校生とアジア・オセアニアの国や地域の高校生が、共に喫緊な世界共通の課題について意見交換、プレゼンテーション、文化紹介等を行い、5日間にわたるプログラムで交流を深めました。

【参加者一覧】

県内高校 12校	県立橋本高等学校、県立那賀高等学校、県立向陽高等学校、県立桐蔭高等学校、県立海南高等学校、県立耐久高等学校、県立日高高等学校、県立田辺高等学校、県立新宮高等学校、開智高等学校、智辯学園和歌山高等学校、和歌山信愛高等学校
県外高校 5校	千葉県立千葉東高等学校、神奈川県立相模原中等教育学校、栃木県立佐野高等学校、京都市立西京高等学校、広島女学院高等学校
海外 20か国/地域	インド共和国、インドネシア共和国、オーストラリア連邦、カンボジア王国、シンガポール共和国、タイ王国、大韓民国、台湾、中華人民共和国、トルコ共和国、ニュージーランド、ネパール連邦民主共和国、フィリピン共和国、ブルネイ・ダルサラーム国、ベトナム社会主義共和国、香港、マレーシア、ミャンマー連邦共和国、モンゴル国、ラオス人民民主共和国

●オリエンテーション●

海外からの参加者を対象にオリエンテーションが行われました。20の国と地域の生徒・教員が一堂に会し、一気に国際的なイベントが始まったなという雰囲気。実行委員会から、フォーラムの概要説明や、和歌山県の紹介が行われました。

●ホームステイ●

海外からの参加者は星林高校の生徒の家庭で、一泊のホームステイを経験しました。最初はお互い緊張した面持ちでしたが、すぐに打ち解けられたようです。もっと一緒にいたかったという声が多く聞かれました。メールアドレスやSNSを交換し、将来の再会を約束していました。

●世界遺産研修ツアー●

和歌山が誇る世界遺産・高野山への研修ツアーが行われました。星林高校の生徒が案内役を務め、壇上伽藍・金剛峯寺・奥の院などの見学や、伝統的な精進料理や阿字観の体験をしました。県外や海外からの参加者は、独特の雰囲気やその歴史に圧倒されていました。往復のバスの時間もコミュニケーションを深める機会になったようです。



●開会式●

多くの観客や来賓の方々が見守る中、開会式が行われました。制服や民族衣装を着た参加者達でステージは華やかに。仁坂知事からは“本音で議論し、競争し、協力してください”という言葉がありました。また、生徒代表による“明るい未来のために共に行動しましょう”という力強い開会宣言がありました。



わかやま国際交流通信

●地域紹介●

互いの理解を深めるため、それぞれの国と地域の紹介が行われました。写真や動画を使った伝統文化や観光名所のPRに皆が興味深そうに見入っていました。国や地域の代表として発表をする生徒達は、緊張しながらも誇らしい表情をしていたのが印象的でした。

●分科会●

“防災”、“環境”、“観光文化”、“情報”、“国際問題”のテーマごとに分科会を行いました。参加者は、自分が研究した成果を15分間のプレゼンテーションで発表しました。県内高校生から選ばれたチェアパーソンが司会進行を担当し、各プレゼンテーションの後には、質疑応答や議論が行われました。例えば、観光文化の分科会では、県内の高校生が三段壁の魅力やお燈まつりの継承について発表しました。防災の分科会では、災害時の高校生の役割や日頃の備えの重要性が議論されました。また、夜には、次の日の全体会に向け、意見のとりまとめや原稿作りをチーム一丸となって行いました。



●全体会●

テーマごとにプレゼンテーションが行われました。分科会の内容をまとめながら、問題の提起と解決への提案が発表されました。チェアパーソンを中心に、素晴らしいチームワークによって行われたプレゼンテーションは、それぞれが重要なメッセージを伝えるものでした。客席からも惜しみない賛辞が送られました。



●歓迎レセプション●

緊張のプレゼンテーションが終了し、参加者は一気にリラックスした表情に。参加者同士がさらなる交流を深めました。ステージでは、日本の剣道演武、インドネシアの民族歌、ミャンマーの民族舞踊のパフォーマンスが披露され、大きな拍手が送られました。代表生徒による閉会宣言では、このフォーラムが有意義な経験となったことや、世界をよりよくするために共に頑張ろうという内容が述べられました。



●交流プログラム●

星林高校での交流プログラムが行われました。体育館での歓迎セレモニーのあとは、クラブ活動体験や、市内視察などを通じ、生徒同士の交流が図られました。

国際課も昨年に引き続きフォーラム事務局として、海外参加者の対応などに携わりました。一度に20もの国と地域から外国人をお迎えする大イベントのため、メンバー一同フル稼働で大変でしたが、緊張しながらも見事な英語で自分の研究成果を発表する高校生の姿に感心したり、仲良くなった参加者同士が別れを惜しんで涙を流す姿に胸が熱くなったりと、刺激を受ける場面も多く、参加した高校生の皆さんにとっても貴重な思い出になったのではないかと思います。

8月24日にテレビ和歌山で放送された県広報番組“マンスリー県政”でアジア・オセアニア高校生フォーラムが取り上げられました。和歌山県ホームページ内の“和歌山県インターネット放送局”からご覧いただけます。

http://www.pref.wakayama.lg.jp/nettv/p_ch4/ch4_movie/07_h28monthly/201608.html

ゲストコラム

◎和歌山県内在住の外国の方や、和歌山県を訪れた外国の方に和歌山や出身地についてご紹介いただくコーナーです。今回は、アジア・オセアニア高校生フォーラムの海外参加者の皆さんに、和歌山の印象や出身地の紹介などを語っていただきました。

▶ 韓国 引率教員 Nam Yeol Choi (ナムヨル・チョイ) さんより



国立公園・無等山

出身地の紹介：私が住んでいる光州市は、人口150万人を擁する韓国で5番目に大きな都市です。国立公園・無等山、アジア文化殿堂などがあり、2年に一度の文化イベント・光州ビエンナーレが開催されます。また、韓国の食の都としても有名です。



和歌山で印象に残ったこと・出身地との違い：高野山の歴史的建造物や風景は、想像以上に素晴らしかったです。また、日本料理にも韓国料理にも欠かせない醤油の発祥地・湯浅を訪問し、本場の醤油を味わうことができたのも楽しかったです。光州と比べると、和歌山市内には駐車場が多く、路上の違法駐車がほとんどありませんでした。また、自転車に乗っている人も多くみられました。夏の気候については、光州のほうが蒸し暑いと思いました。また、韓国の人々の服装はカラフルですが、和歌山では多くの人が白シャツに黒ズボンという格好をしていました。

メッセージ：若者たちの異文化交流の機会となる今回のフォーラムのような事業は、未来への投資である教育を重視した素晴らしい取り組みだと思います。今回参加された学生の皆さんは、きっと将来国内外で活躍する素晴らしいリーダーとなることでしょう。和歌山県の学生の皆さんには、このような素晴らしいフォーラムが開催される自分の故郷に誇りを持っていただきたいと思います。

▶ シンガポール 生徒 Warren Liow (ウォーレン・リャウ) さんより



マリーナ・ベイ・ファイナンシャル・センター

出身地の紹介：シンガポールは高度に発展した大都会で、中国系、マレー系、インド系など、様々な民族の人が暮らす多文化の国です。国土が狭く人口密度が高いため、どこへ行っても混雑しています。



和歌山で印象に残ったこと・出身地との違い：和歌山は、人々も、食べ物も、景観も素晴らしいところでした。なかでも最も魅力を感じたのは、和歌山の人々の日常の暮らしです。大変居心地がよく、皆さんがとてもフレンドリーで、住みやすいところだと思いました。和歌山はシンガポールと比べると都会ではなく、高層ビルや人、車も少ないので、狭苦しく感じることもなく快適に過ごせました。

メッセージ：今回の訪問で和歌山が大好きになりました。いつかまた和歌山を再訪したいと思います。和歌山の皆さんにもぜひシンガポールに来ていただきたいです。



パラワン島（パラワン島公式Webサイトより）

フィリピンの人々には温かいおもてなしの心があるので、誰でも大切なお客様として歓迎され、ゆっくりくつろぐことができます。皆さんも、機会があればぜひフィリピンにお越しください。

▶ フィリピン 生徒 Manuel Luis Borja （マヌエル・ルイス・ボルジャ）さんより

出身地の紹介：私が住んでいるのは首都マニラですが、フィリピンにはパラワン島、バタン諸島、ボラカイ島など世界屈指の美しいビーチがあります。これらのビーチは、夢のような夏の休暇を過ごせる場所として、世界中の人々を魅了しています。また、



和歌山で印象に残ったこと・出身地との違い：和歌山には風光明媚な山や海、閑静な寺院などがあり、とても美しい場所でした。また、豊かな文化と歴史のおかげで、東京や大阪などの都会とは全く異なる一昔前の日本を体験することができました。さらに、人々がとても温かく接してくれて、遠く離れた自分の家と同じようにくつろぐことができました。清潔で広々とした道路の脇に畑が広がるという和歌山で見た独特の風景は、高層ビルが並び人々であふれかえるマニラの都会とは正反対ですが、田舎ながらもよく整備された街だと思いました。

メッセージ：今回のフォーラムは私にとって大変貴重な経験となりました。異文化について見識を広めると同時に、文化が違って我々は結局みな同じ人間であるということにも気づくことができました。和歌山での思い出や、そこで出会った様々な国の友人たちを、一生大切にしていきたいと思います。

▶ インドネシア教員 Annie Thomas（アニー・トーマス）さんより



ワエ・レボ村の伝統家屋（撮影：Henry Marwati）

出身地の紹介：1万7000もの島からなるインドネシアは、民族的にも、文化的にも、言語的にも多様性に富んだ国です。2億4600万人の人々が話す言語の数は方言も含めて500以上。そして、それぞれの民族が持つ素晴らしい風習や生活様式も、この国の魅力となっています。また、自然が好きな人にとっても楽園のような場所で、ありのままの自然を体験することができます。美しいビーチや野生動物保護区のある森林、壮観な山々など、冒険心をかき立てる場所は尽きません。さらに、インドネシアでは深い味わいに富んだ多彩な郷土料理も有名で、旅行者の楽しみの一つとなっています。



和歌山で印象に残ったこと・出身地との違い：日本の人々の温かさや豊かな文化を体験するには絶好の場所だと思いました。畏怖と驚嘆の念を抱かせるような魅力的なところがたくさんありました。特に、高くそびえる木々や、人々の寛大な態度は忘れることができません。また、インドネシアと比べて、環境の整備や清掃が非常によく行き届いていると思いました。

メッセージ：今回のフォーラムは、現在我々が直面している国際問題について議論し、この世界を守っていくためにとるべき手段について理解を深める場となりました。忘れられない学習体験をさせていただき、ありがとうございました。

☆次回のゲストコラムも引き続き、アジア・オセアニア高校生フォーラム参加者の声をお届けします。

国際課活動レポート

◆スペイン・ガリシア州青少年代表団来県

(7月4日～11日)

スペイン・ガリシア州の青少年代表団（15名）が一週間の日程で和歌山を訪れました。ともに世界遺産である熊野古道とスペイン・ガリシア州のサンティアゴ巡礼道は、世界でも例を見ない姉妹道提携をしており、2010年より相互青少年交流を行っています。今回は熊野古道を歩き、熊野本宮大社を参拝した他、和歌山大学での意見交換会、皇林高校有志による和歌山城見学、熊野高校空手部での体験入門、ホームステイなどを体験しました。来年3月には和歌山代表団をガリシア州へ派遣する予定です。



◆アジア最大級の書籍見本市香港ブックフェア2016に出展！ (7月20日～7月26日)

香港貿易発展局が主催する香港ブックフェアに和歌山県のブースを出展しました。書籍やコンテンツを切り口に来場者に対して和歌山県の観光PRを実施し、和歌山の数々の魅力を知ってもらうことができました。

◆南加・メキシコ・ペルー和歌山県人会員の来県

和歌山県は全国で6番目に多くの海外移住者を送り出した移民県です。世界14カ所に当県出身者が県人会を設立し、様々な活動を行っています。7月には、南加（ロサンゼルス）、メキシコ和歌山県人会から2名ずつ、ペルー和歌山県人会からは会長・副会長を含め17名が来県しました。

◆駐日ブルキナファソ大使及び西アフリカ野球チーム来県 (7月26日～31日)

ブルキナファソを中心とする西アフリカの国から選抜された選手からなる西アフリカ野球チームが来県しました。この事業は、野球を通じてアフリカの子供たちを育成することを目的として行われています。今年、田辺市を拠点に活動する野球独立リーグの「和歌山ファイティングバーズ」が設立されたこともきっかけとなり、選手を日本に招聘し、交流試合を行っている団体が、プロジェクトの一環として和歌山に招待しました。田辺スポーツパークや上富田スポーツセンターで、地元の野球経験者やプロ野球OBチームなどと交流試合を行いました。



異文化体験記

◎和歌山県職員による「異文化体験記」です。

和歌山県はインドのマハラシュトラ州と交流しています。その州のオーランガバードという街に和歌山県の事務所があり、私はそこで働いています。

近くには、アジャンタ石窟群遺跡、エローラ石窟群遺跡という世界遺産があり、たくさんの日本人観光客が訪れます。一方で、オーランガバードに住んでいる日本人は私を含めたたったの4人。たくさん異文化交流を経験できるところです。



～Dr.アンベードカル

みなさんは、インド憲法の父、Dr.アンベードカルをご存知ですか？私がまだ日本にいた時、インド人から、Dr.アンベードカルは、あのガンジーさんと同じくらいすごい人で、インドではとても有名だと聞きました。（正直、名前も聞いたことなかったし、本当かな？って疑っていました。）

さて、インドに来てみると、街中で Dr.アンベードカルの銅像や肖像画、青色のシンボルフラッグをたくさん見かけます。（ガンジーさんの銅像や肖像画よりも圧倒的に多いです！）

インドに赴任して間もない4月14日、Dr.アンベードカルの誕生日のため祝日でした。この日、町中は Dr.アンベードカル一色、青色一色になり、猛暑の中、たくさんの記念イベントやお祈り、マラソン大会やデモ行進（？）が催され、私も記念イベントに参加しました。



また、別の日に、仏教徒の結婚式を見せてもらった時、新郎さんと新婦さんの間に・・・大仏さまと Dr.アンベードカルさまが！（≥▽≤）

仏教徒の家には大仏様と一緒に肖像画が飾られていたり、車やオートリキシャにはステッカーが貼られていたり・・・Dr.アンベードカルさん、本当にすごい人だったんですね。疑ってゴメンなさい。

ちなみに、日本では高野山大学に Dr.アンベードカルの銅像が建っています。気になる方は、ぜひ、見に行ってください。

〈平井秀和（平成28年4月よりインド・マハラシュトラ州に派遣中）〉